

# もっと知ろう “陶”

## 14、八大龍王

八大龍王は、仏教守護の八体の龍王（竜神）で水中の主といわれている。昔から雨乞いの神様として祀られ、雲を呼び、雨を降らす井戸の神・農業の神である。この神様が、猿爪川の源流の地である金蛇入池と、水上川の源流の地である龍王山に祀られています。

龍は蛇を神格化したものであり、双方の地には昔話には蛇が登場します。

金蛇入池には、百姓家の鶏・鯉などをさらい、時には子供にも襲い掛かる大鷲を金の蛇が退治したとか、金蛇入池に身を投げた腰元が、他の池に身を投げた殿と姫に会いたくて金の蛇になり空をさまよったという話が伝わっています。

また、龍王山には大きな岩の割れ目に白い蛇が住んでいて、日照りの時は卵をお供えして雨乞いをすると、白い蛇が現れて、水気を吹いて全山を霧で包み雨を降らすという話が伝わっています。

陶の陶磁器以前の産業は農業ですから、田畑の水で苦勞する事の無いよう祀ったのであろう。

昭和の頃、この二つの地は観光スポットでもありました。金蛇入池にはボートが浮かび、桜の季節には花見客で賑わいました。龍王山も男岩・女岩といった奇岩に恵まれ、清らかな水に紅葉の映える憩いの地であり、双方とも若者のデートの場でもありました。もう一つ、滝があるという共通点があります。金蛇入の滝は砂防ダムの工事により水は流れていませんが、龍王山の滝は今も周囲を潤しています。



金蛇入の八大龍王の碑



水上龍王山の祠



龍王山の女岩